

博士論文要旨

研究題目

Study on the Usability of the Drugs Focusing on Easily Pushed Out
押し出しやすさに着目した医薬品の使用性に関する研究

兵庫医療大学大学院薬学研究科

医療薬学専攻

臨床薬剤学（指導教員 天野 学）

氏名 田中 里佳

【研究目的】薬物治療の実践における薬局薬剤師の役割は、社会背景や個々の患者のニーズを考慮したエビデンスに基づく情報提供であると考えられる。そこで本研究では、患者および介護者それぞれの視点から見た医薬品の適正使用に重要と考えられる添付文書あるいはインタビューフォームに未記載の製品特性として、錠剤の PTP 包装からの押し出しやすさおよび介護者の視点から見た点眼液の使用性について検討した。

【研究方法】錠剤の押し出しやすさに関しては、一般用医薬品であるロキソプロフェンナトリウム錠 4 製品を対象とし、デジタルフォースゲージによる PTP 包装からの錠剤の押し出し強度測定および 20 歳以上の成人ボランティアを対象とした押し出しやすさに関する主観的評価試験を実施した。また、介護者の視点から見た点眼液の使用性に関しては、緑内障治療点眼薬であるドルゾラミド塩酸塩/チモロールマレイン酸塩配合点眼液 5 製品およびトラボプロスト/チモロールマレイン酸塩配合点眼液 2 製品を対象とし、デジタルフォースゲージによるスクイズ力（点眼容器から点眼液 1 滴を押し出す力）測定および 20 歳以上の成人ボランティアを対象とした押し出しやすさに関する主観的評価試験を実施した。

【研究結果】PTP 包装からの錠剤の押し出しやすさに関する検討では、押し出し強度と主観的評価との間に負の相関が認められ、錠剤の重量および厚みと主観的評価との間には正の相関が認められた。点眼薬の使用性に関する検討では、スクイズ力と主観的評価との間に負の強い相関が認められ、スクイズ力と 1 滴容量との間には正の相関が認められた。

【考察】PTP 包装からの錠剤の押し出しやすさは、服薬コンプライアンスに影響を与える一因となり得る可能性もある。そのため、これらの情報は患者の手指機能を考慮した製品選択に活用できると考えられた。点眼薬の使用性については、これまで患者の視点に立った検討は行われてきたが、介護者の視点に立ったものはない。そのため、これらの情報は介護者の手指機能を考慮した製品選択に活用できると考えられた。以上、超高齢社会における薬局薬剤師の役割として、セルフメディケーション支援における製品選択に有用な情報および介護者の視点に立った点眼薬の使用性に関する情報を示すことができた。今後は、これらの情報をうまく活用し、地域医療に貢献していく必要があると考えている。